

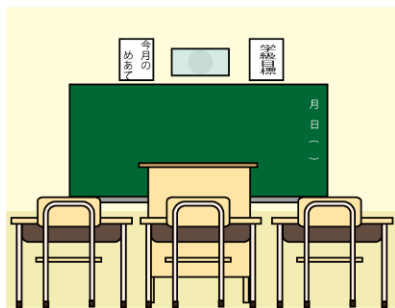
かささぎ



北京日本人学校
学校通信 第9号
令和3年1月29日
校長 栗本 和明

「強く」そして「しなやかに」

教頭 小川 裕子



今回の原稿は子供たちの声がそこかしこで響く活気のある学校で考え始めました。なんとなく書きたいことがまとまり、いざ形にというところで朝陽区教育委員会からの登校停止の指示がありました。学校の状況も子供たちの授業も、そして自分の気持ちも大きく変わってしまいましたので、当初の予定とは違う内容で書くことにします。

今回の登校禁止の指示を受けたのは22日（金）の朝でした。2時間目終わりの休み時間に一部の教員を招集して緊急ミーティング、その日の下校までにすべきことを確認しました。「子供たちにどう伝える？」「保護者連絡は？」「授業に必要な教材教具はどうする？」…10分間のミーティングとは思えないほど、その後についてのたくさんのことを決定しました。その場にいた教員は最初に「明日から登校禁止」と伝えた時こそ「え…」と驚き落胆した様子でしたが、すぐにキリッとした表情に変わり、子供たちや保護者の皆様が混乱しないように、伝えなければならないことを次々と出し合い確認していきました。昼食後に、各学年で担任から子供たちに2月末まで登校できなくなったことを伝え、今後のことを説明していきました。明日から学校に来られない、先生や友達と会えない、という事実には涙ぐんだり声を上げたりする子供もいました。伝える側の教員もなんとも悲しく苦しい表情で、その様子を見ていて心が痛くなりました。しかし、その後の時間はどのクラスの子供たちも担任の指示を聞き整然と荷物をまとめ、家庭での学習に備えた準備をテキパキと行いました。大変な状況に負けない強さ、そしてポキッと折れてしまうのではないしなやかな心がこのコロナ禍で子供にも大人にも確実に身につけていると感じ、心強いような、でも、切ないような何とも言えない気持ちになりました。

いくら急な変化や大変な状況を何度も経験した実績があっても、それぞれがしなやかな心を持っていても、辛抱し続けるのはつらいものです。またしばらく直接会えない日が続く、当たり前になっていた時よりも様々なことが難しいかもしれませんが、しっかりと子供たちの心に寄り添い繋がっていきたいと思います。子供たちにもたくさんの人と繋がっていることを感じてほしいと思います。家庭学習の期間につきましても気になることや困ったことがございましたら、いつでも担任までお知らせください。スクールカウンセラーも一緒に子供たちを支えます。子供たちが心身共に健康にこの期間を過ごし、学校に戻ってくる日には弾ける笑顔が見られることを願っています。



北京で暮らすたくさんの人達が子供たちのことを応援してくれています。

【電子楽器と日本食（ごはんと梅干）の寄贈】



【絵本・文庫本・カレンダーの寄贈】



中学部2年生では、技術・家庭科の学習活動の一環として、校内で様々な植物を栽培しています。まず、2学期の中頃、ラディッシュの種を蒔きました。これは、栽培するときの適当な日当たりや気温をグループごとに考えて、玄関の扉近くや技術・美術室の暖気の近くなどに置いています。毎朝、水やりをすることが恒例となっています。

そして、冬休みにはカイワレ大根を育てて、それぞれ調理して美味しくいただきました。3学期に入って、今度は教室の中で小松菜の水耕栽培に取り組んでいます。その傍らで、生徒たちは水耕栽培のポットを作るときに余った、ペットボトルのふたを使って「ふたピン」をして楽しく遊んでいます。窓際に並べられた様々な植物、太陽の日を存分に浴びながら、生徒とともに元気に成長しています。

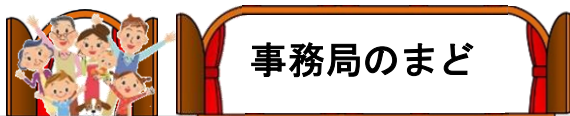


たてわり班活動を振り返って

小中連携部

10月にスタートしたたてわり班活動も、3月1日の「たてわり班解散昼食会」をもって今年度の活動を終わることになります。例年よりも活動回数は限られていましたが、それでもたてわり班オリエンテーリングやハチノコ練習を通して班員同士の絆を深めてきました。

小学部高学年や中学部は、急ピッチな計画や短期間での引き継ぎに直面しながらも、楽しい活動ができるよう一生懸命に取り組む姿が見られました。そしてその努力は、下級生たちの「新しい友達と仲良くなれた!」「今日のレク楽しかった!」という言葉によく表れていました。



事務局のまど

昨年、武漢封鎖が始まった1月23日から1年を経て、今年と同じタイミングで学校は全面的なオンライン授業に移行しました。感染の恐怖や学校自体もう開けられないのではないかという恐れで押しつぶされそうだった一年前と比べて、そのようなこともまたあるだろうと覚悟し、準備して迎えた今回の局面でした。しかしそれでもこれからの在宅学習に備え、たくさんの勉強道具を抱えて下校していく子供たちを見ると、とても切ない気持ちになりました。

そしていま、私の頭のなかには、陸から下りて手をつないで大きな河を渡っているイメージが浮かんできます。河の幅はありますが、深くないことはわかっており、3月には陸にまた上がれる見通しです。しかしこれもまた通過点で、最終ゴールではありません。そもそも最終ゴールはないようです。これが「ウィズコロナ」なのでしょうか、私たちの耐性は、ずいぶん強くなっていますね!

(事務局 倉片)

たてわり 何人?

小学部			令和3年1月29日現在				
	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1年	10	10	20	4年	10	18	28
2年	18	22	40	5年	7	13	20
3年	14	13	27	6年	12	11	23
				小総計	71	87	158

中学部							
	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1-1	7	10	17				
2-1	12	7	19	中総計	25	23	48
3-1	6	6	12	総合計	96	110	206